



御泉水屋敷の変遷

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 平成20年1月18日(金)～3月17日(月)
- 休館日 2月5日(火)、6日(水)、26日(火)、27日(水)

市民の憩いの場所として、また観光の名所として親しまれている名勝養浩館庭園は、江戸時代には「御泉水屋敷」と呼ばれ福井藩主松平家の別邸でありました。

御泉水屋敷の成立時期については詳らかでない点が多いのですが、元々この場所は江戸時代の初期には重臣永見右衛門の屋敷地で、永見氏が2代藩主忠直に成敗されてより藩主の別邸になったと伝えられています。御泉水屋敷の文献上の初見は明暦2(1656)年で、4代藩主光通の側室が御泉水屋敷において男子(権蔵)を産んだと福井藩の歴史書である『国事叢記』などに出てきます。

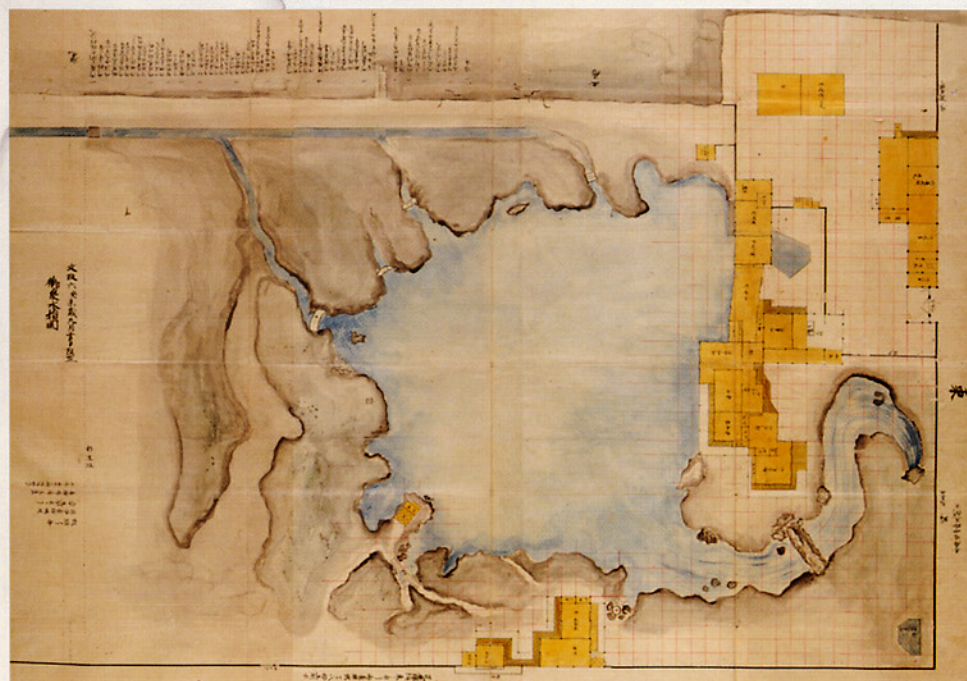
この御泉水屋敷が今見るような姿に整備されたのは7代藩主昌明(のちに吉品と改名、元5代藩主昌親)の時とされてます。吉品は従来の御泉水屋敷である「本御泉水」の改造・整備に加え、西隣に「新御泉水」屋敷を建て自らの隠居所としました。この時、御泉水屋敷の敷地は最も広くなり、今の養浩館庭園・お泉水公園・歴史博物館を合わせた程の大きさとなりました。

吉品没後の御泉水屋敷は、藩の迎賓館や藩主の子女の住居などとして使われたようですが、その規模は新御泉水部分が縮小した元の御泉水屋敷の敷地に戻りました。また幕末頃には洋式銃の製造所が設けられるなど時勢を反映した使われ方もしたようです。

明治維新の廃藩置県によって福井城は政府所有となりますが、御泉水屋敷の敷地は引き続き松平家の所有地として福井事務所や迎賓館としての機能を果たしました。明治17年には松平春嶽によって「養浩館」と名づけられ、その歴史については由利公正が明治24年に「養浩館記」を記しています。また養浩館は、その数寄屋造邸宅や池泉回遊式庭園が早くから注目され、すでに戦前に建築史・庭園史の専門家による調査がなされています。

昭和20年の福井空襲により養浩館は焼失し、その後は長く手つかずのままでしたが、昭和57年に国の名勝に指定され、昭和60年より8年の歳月をかけて、復原にむけた調査と整備工事が行われ、平成5年に完成、一般に公開されました。

これら御泉水屋敷(養浩館庭園)の変遷についてはこれまでいくつかの研究が積み重ねられてきましたが、それを俯瞰するような展示についてはこれまで行われたことは無く、今回のテーマ展が初めての試みとなります。御泉水屋敷(養浩館庭園)の絵画資料や写真資料を交えながらその変遷をご紹介します。

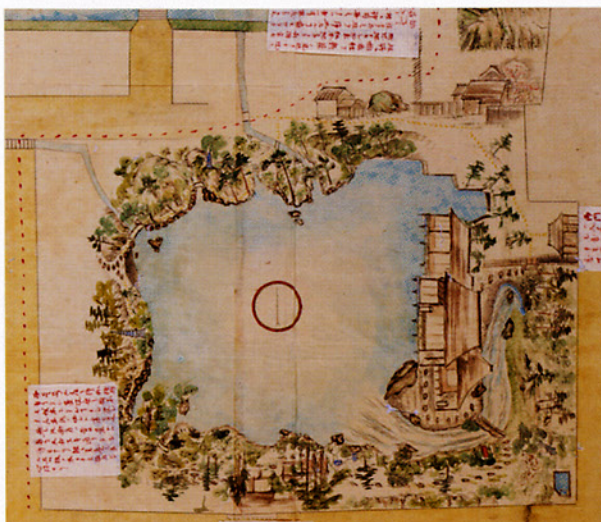


御泉水指図
松平文庫蔵(福井県立図書館保管)

御泉水屋敷(養浩館庭園)年表

西暦(年号)	月 日	御泉水屋敷(名称は「泉水邸」に統一)に関する事項	藩主(当主)	出典
1622(元和8)	12月晦日	松平忠直、永見右衛門を成敗。	二代忠直	
1656(明暦2)	9月28日	光通側室、泉水邸にて男子(権蔵)を産出。(『越前史略』は万治元年と記す。)	四代光通	家、国、越、続片
1665(寛文5)	8月	光通、泉水邸に遊ぶ。武芸を見、宴を催す。	四代光通	越
1674(延宝2)	5月14日	昌親、荒川十大夫を福井に遣わし泉水邸に於いて家臣に襲封の事を告げる。	五代昌親	家、国、越
1675(延宝3)	7月19日	昌親、泉水邸において相撲をみる。	五代昌親	家、国、越、続片
1676(延宝4)	7月21日	昌親、綱昌に家督を譲る。	五代昌親	
1677(延宝5)		昌親、瑞源寺を建立。	六代綱昌	
1686(貞享3)		貞享の大法により領地は半知。昌親、再び藩主となり昌明と改名。	六代綱昌	
1689(元禄2)	10月4日	泉水邸御茶屋普請完成。	七代昌明	家
17世紀末(元禄期)		昌明、泉水邸を大改修。	七代昌明	国、片
1704(宝永1)		昌明、吉品と改名。	七代吉品	
1705(宝永2)	10月	泉水邸にて東府麻布広臨寺節外和尚に茶を饗す。	七代吉品	国、越
1708(宝永5)		吉品、本泉水邸の西隣に新泉水邸を普請。	七代吉品	国、越、片、続片、探
1709(宝永6)	8月9日	泉水邸にて日野西家使者鶴飼内記を饗す。	七代吉品	国、越
	9月5日	本泉水邸にて上野寛永寺顕性院を饗す。	七代吉品	国、越
1710(宝永7)	7月5日	吉品、吉邦に家督を譲る。	七代吉品	
	8月23日	吉品、泉水邸へ入り、以後住居となる。	八代吉邦	家、国、越、続片、探
1711(正徳1)	4月17日	吉品、泉水邸にて発病。	八代吉邦	家、国、続片
	5月2日	吉邦、江戸より帰り、泉水邸に吉品を見舞う。	八代吉邦	家、国、越、探
	5月13日	官医河野松庵、吉品治療のため江戸より来て泉水邸に入る。	八代吉邦	家、国
	5月16日	泉水邸にて松庵を饗す。	八代吉邦	越
	6月7日	吉品、病氣快復。松庵、泉水邸に参上後、江戸へ帰る。	八代吉邦	国、越
	8月21日	吉品、再び発病。	八代吉邦	国、越
	9月10日	京医師中山延柳、泉水邸にて吉品を診察する。	八代吉邦	越
	9月12日	吉品、泉水邸にて逝去。	八代吉邦	家、国、越、続片、探
	9月18日	吉品、泉水邸より出棺。運正寺・瑞源寺にて葬儀。	八代吉邦	家、国、越
1713(正徳3)	10月5日	豊姫(綱昌娘)、泉水邸に遊ぶ。	八代吉邦	国、越
		瑞源寺に隠居地(智勝寺)を与え、泉水邸の御居間・御寝間を下賜する。	八代吉邦	家、国、越
1714(正徳4)	3月9日	豊姫、泉水邸に入る。	八代吉邦	国
	11月7日	豊姫、泉水邸に入る。	八代吉邦	国
1715(正徳5)	2月13日	瑞源寺焼亡。後、泉水邸御居間が下賜され再建。	八代吉邦	国、続片
1718(享保3)	2月3日	吉邦、泉水邸に見物。	八代吉邦	国
1719(享保4)	7月3日	泉水邸にて京町人増田屋(『越前史略』では東都商人益田屋)を饗す。	八代吉邦	国、越
	8月4日	泉水邸にて浪花町人肥前屋を饗す。	八代吉邦	国
	8月25日	泉水邸にて慰事あり。	八代吉邦	国
1721(享保6)	8月5日	初姫(吉邦娘・宗矩室)、神明社に参詣し、泉水邸に入る。	八代吉邦	国、越
1723(享保8)	3月16日	初姫、泉水邸に入る。	九代宗昌	国、越
	6月19日	宗昌、泉水邸に入り、一調一管(能楽の笛と太鼓)を楽しむ。	九代宗昌	国
	7月18日	宗昌、泉水邸にて一調一管を楽しむ。	九代宗昌	国
	8月13日	宗昌、泉水邸にて謡を楽しむ。	九代宗昌	国
	12月8日	泉水邸にて千五郎(宗昌二男)誕生。	九代宗昌	国、越
1724(享保9)	1月12日	泉水邸にて千五郎卒去。	九代宗昌	国、越
1726(享保11)	5月15日	新泉水邸を旧邸(本泉水邸)に併せ移す。	十代宗矩	越
	5月24日	新泉水邸跡地を武家屋敷地とする。	十代宗矩	越
1732(享保17)	6月14日	天王祭礼。初姫泉水邸にてこれを見る。	十代宗矩	越
	8月9日	初姫を泉水邸にて饗す。	十代宗矩	家、越
1736(元文1)	2月25日	「御国産物之絵図」が泉水邸にて完成。	十代宗矩	「御用留抜書(上)」
1742(寛保2)	5月15日	宗矩、夕方泉水邸に御成。	十代宗矩	国
1750(寛延3)	7月9日	泉水邸にて陰陽師吉田類剛に祈禱させる。	十一代重昌	国
1753(宝暦3)	5月5日	泉水邸にて御番割を行う。	十一代重昌	国
	6月28日	泉水邸にて五時御帳夫々相渡す。	十一代重昌	国
	7月23日	泉水邸にて御軍帳始まる。	十一代重昌	国
1757(宝暦7)	6月25日	泉水邸にて御番割始まる。	十一代重昌	国
1758(宝暦8)	3月10日	泉水邸にて御用商人を饗す。	十一代重昌	国
1761(宝暦11)	12月12日	泉水邸にて御番割相済む。	十二代重富	国
1778(安永7)	閏7月1日	重富、泉水邸へ御成。	十二代重富	「橘宗賢伝来年中日録」
1778(安永8)	2月28日	重富、泉水邸へ御成。	十二代重富	「橘宗賢伝来年中日録」
	2月30日	重富、泉水邸へ御成。	十二代重富	「橘宗賢伝来年中日録」
1823(文政6)	9月	御泉水指図作成。	十三代治好	「御泉水指図」
1829(文政12)	8月27日	貞照院(斉承母)、福井に來着し泉水邸を住居とする。	十四代斉承	家
	11月13日	貞照院、泉水邸から御座所に居を移す。	十四代斉承	家
1830(天保1)	11月21日	泉水邸内に貞照院の住居完成。	十四代斉承	家
	11月25日	貞照院、泉水邸の住居に引越す。	十四代斉承	家
1843(天保14)	6月19日	慶永、階五郎(斉承弟)の住居を訪ね、泉水邸に小休する。	十六代慶永	家
	9月4日	階五郎、泉水邸の住居にて逝去。	十六代慶永	家
1854(安政1)		泉水邸内西側に洋式銃製造所設置。	十六代慶永	「奉答紀事」
1857(安政4)	3月24日	明道館の外塾として泉水邸を借用する旨、許可が下りる。	十六代慶永	「館務私記」
		泉水邸内の洋式銃製造所を本多修理下屋敷に移転。	十六代慶永	続片
1864(元治1)	1月16日	村田氏寿、御泉水仮預を仰せ付けられる。	十七代茂昭	「関西巡回記」
1871(明治4)	7月14日	廃藩置県。福井城内は政府所有(のち陸軍省管轄)となる。	十七代茂昭	
	10月12日	茂昭、泉水邸(本御泉水・新御泉水の範囲)を政府より買い取る。	十七代茂昭	家

西暦(年号)	月日	御泉水屋敷(名称は「泉水邸」に統一)に関する事項	藩主(当主)	出典
1878(明治11)	7月24日	春嶽、泉水邸敷地内に開校する小学校の名を「原泉」と命名する。	十七代茂昭	家
	10月12日	春嶽、泉水邸の邸号を「浴恩閣」とする。	十七代茂昭	家
	11月	原泉小学校設立。	十七代茂昭	
1883(明治16)	7月	泉水邸清庵亭屋根大破につき修理。	十七代茂昭	「礫川文藻」
1884(明治17)	8月21日	春嶽、泉水邸の邸号を「養浩館」と改める。	十七代茂昭	家
1885(明治18)	5月	茂昭、墓参のため来福し養浩館に宿泊する。	十七代茂昭	家
1887(明治20)	4月	宝永小学校設立。	十七代茂昭	
1888(明治21)	5月	茂昭、墓参のため来福し養浩館に宿泊する。	十七代茂昭	家
1889(明治22)	6月	茂昭、陸軍省に福井城址の払い下げを願い出る。	十七代茂昭	家
1890(明治23)	2月	福井城址が松平家に払い下げられ、同3月に引き渡される。	十七代茂昭	家
		6月2日春嶽逝去。7月25日茂昭逝去。	十七代茂昭	
1891(明治24)	10月28日	濃尾地震により福井でも被害、養浩館の御茶屋、塀などが破損する。	十八代康莊	家
		由利公正、「養浩館記」を記す。	十八代康莊	
1892(明治26)	4月	康莊、家督相続後初めて福井入りし、養浩館に宿泊する。	十八代康莊	家
	5月	康莊、松平試農場を創設し、福井城址の開拓を行う。	十八代康莊	
1895(明治28)	5月	康莊、御座所跡に邸宅を建て、福井に住居を移す。	十八代康莊	家
1897(明治30)	11月5日	康莊、養浩館にて園遊会を開催。	十八代康莊	家
		7月の水害により、養浩館の襖、畳、壁、便所、塀などの修繕を行う。	十八代康莊	家
1898(明治31)	9月20日	長岡護美が来福し、養浩館に宿泊する。	十八代康莊	家
1901(明治34)	9月5日	華頂宮が来福し、養浩館を見学する。	十八代康莊	家
1902(明治35)	5月22日	坊城伯爵が来福し、養浩館を見学する。	十八代康莊	家
1903(明治36)	8月2日	康莊夫妻、権花会に養浩館に入る。	十八代康莊	家
1905(明治38)	10月22日	日露戦争の戦没者追悼法会を養浩館にて行う。	十八代康莊	家
1906(明治39)	9月16日	前田子爵(大聖寺藩)が来福し、養浩館にて休憩する。	十八代康莊	家
1907(明治40)	10月20日	康莊、謡曲会のため養浩館に入る。	十八代康莊	家
1909(明治42)	4月5日	松平慶民・徳川義親が来福し、養浩館に入る。	十八代康莊	家
	9月16日	皇太子行啓のため松平慶民が来福し、養浩館に宿泊する。	十八代康莊	家
1910(明治43)	10月22日	徳川家達夫妻が来福し、養浩館を見学する。	十八代康莊	家
1911(明治44)	8月18日	康莊、宝永小学校で演説を行った慶應義塾学生を養浩館で饗す。	十八代康莊	家
1912(明治45)	10月27日	三条公美夫妻が来福し、養浩館を見学する。	十八代康莊	家
1913(大正2)	9月22日	大隈重信夫妻が来福し、養浩館にて饗す。	十八代康莊	家
1919(大正8)		福井城址の福井県への無償譲渡が決定し、試農場は細呂木村山室に移転する。	十八代康莊	
1920(大正9)	7月20日	養浩館修繕計画のため、京都の数寄屋大工上坂浅次郎を呼び寄せる。	十八代康莊	家
1921(大正10)	4月4日	養浩館建築物維持保存方法調査のため、県技師と家令を出向させる。	十八代康莊	家
1922(大正11)		福井県庁が本丸跡に移転。	十八代康莊	
1927(昭和2)	4月	グリフィス夫妻が来福し、養浩館で歓待をうける。	十八代康莊	家
	9月8日	養浩館に対する屋上制限(屋根材規制)除外の指令書がでる。	十八代康莊	家
1928(昭和3)	5月19日	養浩館泉水引水開工を行う。	十八代康莊	家
1936(昭和11)		北尾春道が養浩館を調査し、「数寄屋住宅聚」を刊行する。	十九代康昌	「数寄屋住宅聚」
1939(昭和14)		重森三玲が養浩館を調査し、雑誌「林泉」に報告を載せる。	十九代康昌	雑誌「林泉」
1942(昭和17)		「日本建築—養浩館—」が刊行される。	十九代康昌	「日本建築」
1945(昭和20)	7月20日	福井空襲により焼失。	十九代康昌	
1947(昭和22)		宝永小学校が移転し、跡地に警察学校などの官公庁とテニスコートができる。	十九代康昌	
1949(昭和25)		養浩館跡地(現庭園内)に県立図書館が開館。松平文庫を受託。	十九代康昌	
1958(昭和33)		養浩館跡地(現庭園内)に県立岡島記念美術館が開館。	二十代宗紀	
1980(昭和55)		県立岡島記念美術館が閉館。岡島コレクションは県立美術館へ移管。	二十代宗紀	
1981(昭和56)		県立図書館が城東地区に移転。	二十代宗紀	
1982(昭和57)	7月26日	養浩館庭園が国の名勝に指定される。	二十代宗紀	
1985(昭和60)		養浩館庭園の復原にむけた調査・整備が始まる。	二十代宗紀	
1993(平成5)	6月17日	養浩館庭園の復原工事が完了し、一般に開園される。	二十代宗紀	



明治期諸絵図
(養浩館庭園)
松平文庫蔵
(福井県立図書館保管)



大隈重信夫妻と松平康莊夫妻の養浩館での記念写真(大正2年)



昭和17年頃の養浩館（『日本建築－養浩館－』より）

展示品目録

No.	資料名	員数	所蔵	備考
1	『家譜』	全272冊のうち	越葵文庫	福井藩歴代藩主（当主）の記録
2	『国事叢記』（写本）	全15冊のうち	松平文庫	田川清介編、天正2年から明和7年までの福井藩史
3	『越藩史略』（写本）	全13冊のうち	当館蔵	井上翼章編、天正2年から安永10年までの福井藩史
4	『続片聳記』（写本）	全8冊のうち	当館蔵	山崎英常編、天正2年から慶応2年までの福井藩史
5	『探源公行状』（写本）	1冊	当館蔵	村田氏章筆、7代藩主吉品（5代昌親）の一代記
6	吉品公御画像	1幅	越葵文庫	御霊代用具のうち
7	北庄御城下之図	1枚	当館蔵	慶長19（1614）年頃、嘉永6年山崎英繁書写
8	忠昌・光通代城絵図并家中福井之図	1枚	春嶽公記念文庫	17世紀半ば頃、影写本
9	福井御城下絵図（複製）	1幅	原本：松平文庫	貞享2（1685）年
10	御城下之絵図（複製）	1幅	原本：松平文庫	正徳4（1714）年
11	御泉水指図	1枚	松平文庫	文政6（1823）年
12	御泉水屋敷跡出土の土器	13点	文化財保護センター	御泉水屋敷御花作り居宅跡出土
13	『築山庭造伝』（復刻本）	前後各3巻	当館蔵	秋里籬島編
14	泉邸絵図	1枚	松平文庫	明治12年ごろか
15	明治期諸絵図（養浩館庭園）	1枚	松平文庫	明治12年ごろか
16	松平春嶽筆『真雪草紙』	全2冊のうち	春嶽公記念文庫	第1編：明治14年 第2編：明治16年
17	福井温故帖	1冊	越葵文庫	明治17年頃
18	松平春嶽筆『礪川文藻』	全162冊のうち	春嶽公記念文庫	明治11年から明治23年までの日誌、備忘録
19	郷土史関係写真帖	1冊	当館蔵	野路写真館旧蔵
20	明治期諸絵図（養浩館新築絵図）	1枚	松平文庫	明治20年代か
21	養浩館の庭に於ける松平康荘の写真	1枚	春嶽公記念文庫	明治26年5月撮影
22	森恒教著『福井城の今昔』（写本）	全7冊のうち	当館蔵	平尾静筆写
23	福井泉水邸写真	1冊	春嶽公記念文庫	昭和2年、10年撮影
24	グリフィス博士福井訪問記録写真帳	全3冊のうち	当館蔵	昭和2年撮影
25	吉田初三郎筆 福井市街鳥瞰図（複製）	1枚	当館蔵	昭和8年発行
26	名村定志画「松平泉邸」	1面	越葵文庫	昭和16年
27	北尾春道編『数寄屋住宅聚』	1冊	個人蔵	昭和11年刊行
28	京都林泉協會発行『林泉』第58号	1冊	当館蔵	昭和14年刊行
29	田邊泰編『日本建築－養浩館－』	1冊	個人蔵	昭和18年刊行

※松平文庫は福井県立図書館保管、越葵文庫は当館保管、春嶽公記念文庫は当館蔵の福井市春嶽公記念文庫である。

◎見どころ講座

「御泉水屋敷（養浩館庭園）の変遷について」

日時 3月15日(出)午後2時～
場所 2階講堂
講師 藤川明宏(当館学芸員)
定員 60名(当日先着順)

【次回の展示】

館蔵名品展

3月20日(木)～5月6日(火)

「展示解説シート No.31」

平成20年1月18日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
history@museum.city.fukui.fukui.jp
担当：藤川 明宏